

ISPS が東京ヴェルディとコーポレートパートナー契約締結！

2017年1月10日

一般社団法人 国際スポーツ振興協会(ISPS)

「チャリティーを進化させ、スポーツの力で社会をより良く」をスローガンとする 一般社団法人 国際スポーツ振興協会(ISPS)は、東京ヴェルディ（東京ヴェルディ1969フットボールクラブ株式会社）と2017シーズンのメインコーポレートパートナー契約を締結しました。以下のロゴが掲出されます。

ユニフォーム胸



看板等

ISPSHANDA

掲出箇所: 東京ヴェルディユニフォーム胸

東京ヴェルディホームゲーム看板2基

東京ヴェルディパートナーバナーボード

他東京ヴェルディ各露出物

私たち ISPS は、2006 年 10 月現会長半田晴久が設立して以来、スポーツ振興を通して社会福祉活動、及び国際協力の活動を行う団体として、国内外で多くのスポーツを支援しています。

ゴルフにおいては、年間 65 試合以上をスポンサード、昨年開催されたワールドカップオブゴルフでは、松山と石川両選手が日本代表になり、大いに盛り上がりました。

ISPS は、サッカーが持つあらゆる可能性に注目してきました。

南アフリカにおけるファイブス・フットボール（町中にサッカー練習場を作り、サッカーを振興する活動）支援、南アフリカのプレミアリーグ「ムプマランガ・ブラックエイシス」（現 FC ケープタウン）のメインスポンサーとなり、教育や福祉におけるサッカーの可能性を実感しました。即ち、サッカーを通じ「ルールを守る事の大切さ（自律心）」「チームワークを作るために、コミュニケーション能力を磨くこと」「仲間や監督の考えを理解すること（咀嚼力、読解力）」「高い目標を持って自己鍛錬すること（向上心）」「ファンやサポーターと交流し、人を大切にすること（社会性、サービス精神）」など、社会やコミュニティーと適応し、自分を向上させることを学べるのです。

また、サッカーに夢中になることで、孤独から子供を救い、犯罪やドラッグに走る道から救い、自立更生させることができるのです。特にサッカーは、どんなに貧しい環境の子供でも、ボールさえあればやれるのです。

そのよき影響は、子供に限るものではありません。サッカーを通じて、人種や思想、信条の違う者同士が、互いを理解し、触れ合って親睦をはかることができるのです。オリンピックと同じように、平和をもたらす手段にもなるのです。

昨年 12 月、ISPS は、ニュージーランドフットボール（サッカー）協会のメインパートナーとなり（正式には 3 月から）、今年はニュージーランド最古のトーナメントの一つ、1923 年創設のチャタムカップのメインスポンサーになりました。

ISPS 会長の半田は、「サッカーは世界的なスポーツです。ニュージーランドはラグビーで有名ですが、サッカーも同じレベルに引き上げたいですね。特にサッカーは、ラグビーより底辺の人々まで楽しめるので、スポーツの力を広く社会に行き渡らせ、人々をより良く感化できると信じます。」と語りました。

東京ヴェルディは創設以来、40 年を越える歴史と伝統のあるチームです。J リーグ発足時に加盟した、10 チームのうちのひとつですが、特筆すべきはクラブの育成システムです。他チームに先駆け、小中高と一貫した指導方法で将来の J リーガーを発掘し、しっ

かりと育てます。そのために、アカデミーのユース、ジュニアユース、ジュニアチームを設立したのです。それと同時に、Jリーグの創設前からサッカーの魅力を伝える拠点を、全国に何ヵ所も設立しました。また、1981年には女子サッカーチーム「日テレ・ベレーザ」を創設。「日テレ・ベレーザ」は妹チームの「日テレ・メニーナ」と共に、女子サッカーの中心的存在として、オリンピック選手を多数輩出して現在活動しています。このサッカーの底辺を拡大する、様々な取組みに対して、大いなる讃辞を贈りたいです。

ISPSは、育成に力点をおいた東京ヴェルディの理念に共感し、スポンサードを通じて、さらなる社会貢献を目指す所存です。そして、全国のサポーターと共に、J1へ昇格し、J1で優勝することをめざして、熱く応援したいです。その事を通して、日本のサッカー界を盛り上げたいです。その先には、ワールドカップやオリンピックで優勝できる、日本サッカーになるよう、できるだけの支援をしたいと望んでいます。

今年は酉年ですが、まずはコンドルのヴェルディ君が、大いに翔く年であって欲しいと思います。go、go ヴェルディ君！ 翔け翔けヴェルディ君！